

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市芝久保町 5 - 4 - 2
園名	西東京市立西原保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

発見・想像・工夫(水の流れ、音、泥の感触、自然への気づき)

<テーマの設定理由>

砂場で泥んこをした時に、最初は穴を掘った所に水を入れたり、足を入れて遊んでいたが、人数が増えると狭くなり、道を掘りそこに水が流れていくことに気付いた子どもがさらに道を掘り進めていた。

溜まった泥水の中に入り手と足で泥の感触を楽しむうちに水の量の加減で泥の感触が変わる事に気づく。

### 2. 活動スケジュール

- ・素足で外に出て遊ぶ。
- ・ある程度穴や道を掘った所で水を入れる。
- ・砂場以外の水が流れてきた所の地面を歩いたり手で触る。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

砂場、水、ホース、シャベル、バケツ、コップ、半円のパイプ、トンネル、乗り物おもちゃ、水遊び噴水マット、わくわく水流しセット、ウォーターホール、ゾウさんのスプリングラー  
水道設備

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・素足で外に出る ・砂場に水路を掘る ・水を流してみる
- ・水流を見て水が流れるように掘り進めたり、水の流れてしまった所を掘りなおしたりする。そこに半円のパイプを持ってきて置いてみる。
- ・平らに置くと水が一定方向に流れないので、位置や向きを変えたりする。
- ・うまく水が流れるとそこに乗り物のおもちゃを浮かべ走らせて遊ぶ。
- ・コップを土台として置いたりしながら、高低差ができるように考えている。
- ・川の途中や流れて最後に溜まった水の中に手や足を入れ、歩いたりジャンプしたりしはじめる。
- ・園庭の水溜まりに素足で入り手で触ってみる
- ・プールの期間は水遊びの遊具を使って楽しむ

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・道を掘るとそこに水が流れていくのを見て、子ども自身が自分の方に水が欲しくてさらに掘っていく。
- ・水がうまく流れないと、どこで水が止まっているかを探し、原因の部分改善する。半円パイプを並べて水を流しはじめるが、平らに置くと水が流れない事に気づく。保育者が片側を少し上げ高低差をつけてみると、水が流れることに気づく。また、半円筒を並べるだけでは、継ぎ目から水が流れ出してしまう事に気づく。半円筒を少し重ねるが重ね方によってはうまく流れないので、重ね方を工夫していた。
- 水が溜まってくると、初めは手を入れていたが、足も入れていいよと言うと、恐る恐る足を入れる入ってみると日向は「あつい」日陰は「冷たい」と水たまりの温度差に気づく。
- 水たまりのなかで、足踏みしたり、ジャンプし水が跳ねるのを楽しむ。
- 水たまりに手を入れ、どろっとした感覚を楽しむ。「ホットケーキみたい」など知っているものに例える。水を足すとさらにゆるくなることに気づき、水を足してみる。
- ・ホースの水をアーチ型にすると虹が見えたので、大人が伝えると「どこどこ？」と見える位置を探し始め他の子にも教えていた。
- ・土曜保育の時も(縦割り保育)4歳児が砂場遊びで水を出して欲しいといたので、出すと道路をほり水をながすと川ができた。それを見て5歳児が「この水ずっとあるのかな?」「どうなるかな?」そのままにしてみようとなった。
- ・水遊びの遊具をみて(道具にホースをつなぎ水がはいっていきが踏むと水が上に飛び出す)どうやって遊ぶのかな?と考えここを踏むと水がびゅーと出るよと発見する子どもたち。ここから水が流れて、色々な道具を使ってあそびが発展する。

## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 保育者が半円の筒を斜めにすると水が流れる事をやって見せた事をきっかけに、友だち同士で考え、一人では難しい作業も、友だち同士「ここ持っている」「こうかな？こうは？」と手伝いながら一つの水の流れを作っていく姿があった。
- ・ 水がうまく流れなかったり、境目から水が漏れてうまくいかなくても、こうしたら？と自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いて試してみたりし、途中で水が漏れないで最後穴に水を流すという共通の目的に向かって根気よく試行錯誤する姿が見られた。
- ・ それぞれが違う川を作っている、川が出合うと同じ目的とわかるのか、より長くできるとおもうのか、自然と合体させさらに長くしようとする一体感がうまれていた。満足するものができる、そこに乗り物をのせ流したり違う遊びに発展していった。一度満足いくものを完成させるとコツがわかったのか、次からは要領よく色々なものを組み合わせ水の流れを作れるようになった。
- ・ 水たまりの場所により、温度差があるのは、日陰か日向かによるものと子ども自身が気づいていた。泥の軟らかさによって、色々な触り方を楽しんでいた。
- ・ 水遊びは、遊んでいるうちに自分たちで発見があった。遊び方もどんどん変わり、友だち同士で考え、どうやったら面白く遊べるかと楽しんでいた。

